

わたし!! 『三遊亭小金馬』 梅本勝久

十月某日、すっかり秋も深まった大都会東京の雑踏の中を、一人の男がミニバイクに跨り走っていた。ミニバイクであるからして、100cmの背を丸める様にして……。それは見るからに寒そうで貧相でしかも滑稽に映った。

昨今は嘶家の中において大型バイクのブームがおきていた。しかし彼はミニバイクである。その連中の嘲笑いを受けながら今日も乗っている。ミニバイク、正式には「原付自転車」そう自転車なのだ。たかが自転車……。

そこで男は自ら、これを「ハレービビットソン」と命名した(たいしたミエ坊な奴である)。

今日も今日とて、一時市ヶ谷歌老会。六時浅草演芸ホール。八時深川名人会。とスケジュールは三軒のかけ持ちである(普段は全くヒマなくせに)男は呟いた「厚着すればよかつたなあ……」男の呟きに反発する様に冷たい秋風が鼻の頭を叩いた。

また男が呟いた「まあいいや、

それより今日はどんな落語を啗そうかな……。そう彼は若手の落語家だったのだ。

男の名前は「三遊亭小金馬」、本名は「梅本勝久」なんとも無骨な名であることか。

男は、昭和24年9月22日に京都府は「岸壁の母」で名高い舞鶴で産声を上げた。男ばかり二人兄弟の真ん中で育った。物心が付いたころより、何故か年に二度やってくるドサ通りの芝居が大好きであった。それを見ては家に帰って「二人芝居」で楽しんだ。

そんな子供が始めてラジオで「落語」と言う物を聞いた。二代目金馬の「居酒屋」であった。

一人で遊ぶのが好きな子供は、その度で落語のとりこになった。

つてしまった。そして高校を卒業した昭和43年10月に現四代目金馬に入門した。(なぜか43年の春から秋までは空白である)本名が「勝久」そこで芸名を「三遊亭勝馬」となった。

昭和48年9月、二ツ目に昇進し、昭和52年2月には美女子交際した(ミス広島である)またミエをはってしまった)昭和56年には「国立若手演芸会」の大賞に輝いた。そして、昭和58年1月真打に昇進、三代目小金馬を襲名し現在に至る。

まさに、順風満帆の人生である。と本人一人が思っているから本当に盛大な奴である。男は走る。

ビビットソンは走る。つるべ落しの秋の夕暮れをいつまでも(完)

と賞賛された。

現在はオルケスタ・タンゴモデルノスのリーダーとして現代感覚のタンゴを紹介、高評価を受けている。

●安達清子(旧平井)10年卒
「ともかき」お送り頂きありがとうございます。なつかしく拝読させて頂きました。なつかしお話を聞かせて頂きました。なつかしお話を聞かせて頂きました。なつかしお話を聞かせて頂きました。

●和田さん(旧太田)17年卒
60年10月とうとうバイクでケガをしてしまい、「ともかき」をいたいた頃は病院のベットの上でした。一ヶ月もたつてから、やっと片目で読めました。病後の中庭の欄が燃えるように赤かったのがすっかり裸になり、雪が降り積り、とけて道路に砂ぼこりが立つ頃退院しました。今は少し元気になりました。

●小林悦子 19年卒
青葉会のお知らせをいつもうれしく拝見いたしておりました。卒業以来40年余りですが一年に一回クラス会を開き、学校時代の思い出話を花を咲かせておられます。

●草野ムツ(旧梅沢)42年卒
「ともかき」10号お送り下さいます。今年の仕事の都合で欠席しましたが、皆様楽しい集い

だった事でしょう。「ともかき」を何度も読み返し、十代にもどった思いが致しました。一つお願いがございます。川上様、肥満症のカロリー制限食のレポートがまとまりました。是非またお教え下さいませ、楽しみにお待ちしております。よろしくお願いします……ともあれ「ともかき」は何より嬉しい宝です。大変ではございますが、今後共宜しくお願致します。

●有満ふき子(旧宇野)46年卒
一年ぶりで再び(仙台から)東京に戻ってまいりました。まだ荷物の片付けなどあり、今回の同窓会に出席できませんが、これからはすうっと都内(八王子)にいるつもりです。次回こそはと楽しみにしております。

(2面ヨリ)
年ぶりで恩師を囲む会を計画、この三月に有志十二人で京都在住の北山先生をお訪ねしました。謡曲や鼓を嗜まれる北山先生の姿勢の良さ、蘭切れの良いお話しぶりに、生き生きと美しく老いることのお手本を見せて頂いた気がいたしました。

十月には定例のクラス会を熱海で開きます。私たちは六高女学校「洗心女学校」を卒業したことを誇りに思い、在校の日々の思い出は何度くり返されても、懐かしく心暖まる思いでいっぱいになります。近況不明の方五名、消息が一日も早く判明することを級友一同は祈っております。



石田技研株式会社
代表取締役 石田 弘 (昭29卒)
〒144 東京都大田区羽田旭町1-1
TEL 03 (744) 2 2 1 1 (大代表)

紙のことなら
イオカワ紙店へ
株式会社
五百川紙販売
代表取締役 五百川 武 (昭41卒)
〒108 東京都港区白金1丁目21-4
TEL 03 (446) 5 5 7 1 (代表)

同窓会席上 「志賀清先生」来演 — 歌うヴァイオリン —



さて、会員の皆さん先生のことをご存知かと思いますがその略歴を記しますと。

先生は7才でヴァイオリンをはじめ、モギレフスキーに師事。21才の若さで日劇管弦楽団のコンサート・マスターに。クラシック、スタンダード、ジャズ、タンゴ等あらゆる分野でご活躍なっています。

一九六四年「早川真平とオルケスタ・ティピカ東京」のコンサート・マスターとして、南米九ヶ国を楽旅され。その後ハンガリー、ヨーロッパを歴訪し「歌うヴァイオリン」

ことをご存知かと思いますがその略歴を記しますと。

先生は7才でヴァイオリンをはじめ、モギレフスキーに師事。21才の若さで日劇管弦楽団のコンサート・マスターに。クラシック、スタンダード、ジャズ、タンゴ等あらゆる分野でご活躍なっています。

一九六四年「早川真平とオルケスタ・ティピカ東京」のコンサート・マスターとして、南米九ヶ国を楽旅され。その後ハンガリー、ヨーロッパを歴訪し「歌うヴァイオリン」

ことをご存知かと思いますがその略歴を記しますと。

先生は7才でヴァイオリンをはじめ、モギレフスキーに師事。21才の若さで日劇管弦楽団のコンサート・マスターに。クラシック、スタンダード、ジャズ、タンゴ等あらゆる分野でご活躍なっています。

一九六四年「早川真平とオルケスタ・ティピカ東京」のコンサート・マスターとして、南米九ヶ国を楽旅され。その後ハンガリー、ヨーロッパを歴訪し「歌うヴァイオリン」

ことをご存知かと思いますがその略歴を記しますと。

先生は7才でヴァイオリンをはじめ、モギレフスキーに師事。21才の若さで日劇管弦楽団のコンサート・マスターに。クラシック、スタンダード、ジャズ、タンゴ等あらゆる分野でご活躍なっています。

一九六四年「早川真平とオルケスタ・ティピカ東京」のコンサート・マスターとして、南米九ヶ国を楽旅され。その後ハンガリー、ヨーロッパを歴訪し「歌うヴァイオリン」

ことをご存知かと思いますがその略歴を記しますと。

先生は7才でヴァイオリンをはじめ、モギレフスキーに師事。21才の若さで日劇管弦楽団のコンサート・マスターに。クラシック、スタンダード、ジャズ、タンゴ等あらゆる分野でご活躍なっています。

一九六四年「早川真平とオルケスタ・ティピカ東京」のコンサート・マスターとして、南米九ヶ国を楽旅され。その後ハンガリー、ヨーロッパを歴訪し「歌うヴァイオリン」

ことをご存知かと思いますがその略歴を記しますと。

先生は7才でヴァイオリンをはじめ、モギレフスキーに師事。21才の若さで日劇管弦楽団のコンサート・マスターに。クラシック、スタンダード、ジャズ、タンゴ等あらゆる分野でご活躍なっています。

一九六四年「早川真平とオルケスタ・ティピカ東京」のコンサート・マスターとして、南米九ヶ国を楽旅され。その後ハンガリー、ヨーロッパを歴訪し「歌うヴァイオリン」

ことをご存知かと思いますがその略歴を記しますと。

先生は7才でヴァイオリンをはじめ、モギレフスキーに師事。21才の若さで日劇管弦楽団のコンサート・マスターに。クラシック、スタンダード、ジャズ、タンゴ等あらゆる分野でご活躍なっています。

一九六四年「早川真平とオルケスタ・ティピカ東京」のコンサート・マスターとして、南米九ヶ国を楽旅され。その後ハンガリー、ヨーロッパを歴訪し「歌うヴァイオリン」